



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：シナイ半島でのガス・パイプライン爆破事件で「犯行声明映像」が出現
中東調査会イスラーム過激派モニター班

1. 事実関係

2012年7月24日、インターネット上のイスラーム過激派諸派が使用する広報用の掲示板サイトに、シナイ半島でのイスラエル向けガス・パイプラインを爆破したと称する映像が投稿された。投稿者は「アンサール・バイト・アル＝マクディス」を名乗った。映像は、エジプト人民がガスの供給不足に悩む中イスラエルに大幅な割引価格でガスが販売されていることを非難、作戦準備やパイプライン・警備状況を撮影した場面、パイプラインが炎上する場面などから構成される。映像中の音声などから、準備状況、炎上場面は14回目の爆破事件を指しているものと思われる。

シナイ半島では、2011年のムバーラク前大統領放逐以来の治安の弛緩により、現在までに15回のパイプライン爆破事件が発生している。うち2011年2月～12月に10回、2012年1月～5回、直近は2012年7月21日の爆破事件がある（2011年の動きについては『中東研究別冊 2011年版』をご参照）。これらの事件については、アル・カーイダのアイマン・ザワ―ヒリーが演説中で事件を賞賛するなどしていることから、報道などでイスラーム過激派の犯行説が取り上げられてきた。今回の映像は、そのような中でイスラーム過激派を自称する主体による初の「犯行声明」である。

2. 評価と見通し

映像を投稿した「アンサール・バイト・アル＝マクディス」は、ラマダーン入りを前に祝辞声明を発表するなどしてイスラーム過激派の広報の世界に姿を現した。ただし、これも含むシナイ半島・エジプト関連のイスラーム過激派の活動についての情報は、具体的な戦果や信憑性に乏しい情報が大半で、今般の映像をもってしてもイスラーム過激派がシナイ半島でのパイプライン爆破事件などの治安事案の全て、或いは一部を実行したと断定するには至らない。何故なら、「アンサール・バイト・アル＝マクディス」による映像の投稿は、確かにイスラーム過激派の掲示板サイトの中でも最も信憑性・影響力が高いサイトで行われたが、イスラーム過激派の中でアル・カーイダなどのように一定の名声や信憑性を確立した諸派が行う情報発表とは異なる手順で投稿されたからである。このことから、少なくとも今般の映像の製作・発表者は、既存のイスラーム過激派の広報活動の「正規の」経路からは外れた者であるといえる。

今後、シナイ半島でのイスラーム過激派の活動が、「真正なもの」として認知されるためには、より信憑性の高い声明・映像を提供することを通じ、彼らがイスラーム過激派の広報経路で地位を確立することが必要である。シナイ半島でのイスラーム過激派の活動が、「ア

ル・カーイダの活動」として認知されるためには、この様な威信と信頼性の確立が必須であり、現時点ではシナイ半島にそのような認知を獲得した主体は存在しない。従って、現時点でイスラエル向けガス・パイプラインの爆破を「アル・カーイダ“系”」の作戦とみなすことは拙速な判断であろう。

一方、「エジプトで燃料供給が滞る中でイスラエルに廉価でガスを販売しているのは不正な行為である」との主張は、実際にパイプラインを爆破するなどして供給を阻止する行動に出るか否かは別として、エジプト世論の賛同を得やすい主張ではある。このため、エジプトからイスラエルへのガス供給にまつわる世論の不公正感や不平に対処することなく、警備や摘発の強化のみでパイプライン爆破を完全に阻止するのは難しいと思われる。